



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

1991.1.1 No. 3328

JRをめぐる

新情勢の到来!

今年、JRをめぐる情勢が、大きくゆれ動き変化する年になりそうだ。

第一に、運輸省の新幹線売却の決定により、いまだ「国鉄問題」が、国会論議の組上りのほることになる。

そもそも新幹線は、国鉄改革法にもとづき、向こう三十年間、JR三社に貸付られ、そのリース料をもつて、長期債務返済の一部にあてられていた。それをたつた四年で法改正するわけだから、いや応なしに、二七兆円にふくれあがった

清算事業団の債務問題も含めて、国鉄改革法それ自体に言及せざるを得なくなる。さらに、問題はそれだけにとどまらない。

鉄道整備基金構想を論議すればするほど、「何のための国鉄分割・民営化だったのか」ということになり、株式市場問題から、それに伴う三島JR各社の経営矛盾やJR各社間の利害対立、そして、自前のルールを持たない貨物輸送問題、安全問題等々に至るまで、JRがかかえる本質的矛盾にぶちあたたらざるを得ないのである。

清算事業団闘争も再び正念場へ

JR改革マル結託体制の危機

第二に、今春三〜四月を

むかえる。

ひとつのメドに、清算事業

第三に、JR総連改革マル

団闘争が、和解による早期決着に切り捨てか、それとも、解雇撤回に現職復帰の完全勝利の展望をきりひらくのかをめぐって正念場を

このことを端的に示したのが、昨十二月四日に開催されたJR東労組第九回定中での松崎発言であった。「公然とJR総連からの脱退をそのかす某社幹部がいる」「JR東海は、志摩(元鉄労組合長)に六百万円の顧問料を払って妨害している」「JR東日本は、運輸省から評判が悪い。(それは)某社幹部が、(JR東日本は)松崎のいうこ

一九九一年一月一日
国鉄千葉動力車労働組合
執行委員長 中野 洋

国春

チャンス到来!

われわれの闘いこそが 新情勢をきりひらいた

この新情勢をきりひらいた原動力こそ、清算事業団の仲間たちを先頭に、五年余にわたる差別・選別攻撃下で歯をくいしばってがんばりぬいた組合員の奮闘、そしてなによりも、一切のスト庄殺攻撃を粉砕し貫徹

世界・日本も大激動へ!

われわれは勝利の

展望を手にした

一方、JRのみならず、九一年は、世界が、大激動の中に叩きこまれる年になることはまちがいない。

一触即発の湾岸情勢、シユワルナゼ外相の突然の辞任にゆれるソ連・ゴルバチョフ体制の危機、ますます深刻化するアメリカの出口なき危機など、いつ何が起きてもおかしくない情勢である。

また、自衛隊海外派兵と新天皇儀式でつまづいたポスト海部なき海部政権の

この密集せる反動の中、その勝利の可能性と展望を見てとることができ

三月ダイ改、清算事業団、

中江選挙闘争の三大課題に

総決起しよう!

動労千葉は、新年冒頭から、三月ダイ改闘争に突入する。極限的合理化攻撃と運転保安の危機、そして、動労千葉根絶を意図する業務移管攻撃を、怒りをこめ

さらに、清算事業団闘争